

あとがき

1999年3月

国立学校財務センター研究部長

市川昭午

国立学校財務センターの研究部は高等教育の財政及び国立学校の財務を中心に研究することを任務としているが、現在高等教育計画と高等教育財政に関する定員が2名措置されているだけである（次年度から漸く国立学校の財務に関する研究が加わることになる）。そうしたことから研究部のスタッフだけでは研究業務の遂行が困難であり、各方面の専門家各位のお知恵をお借りする必要があると考え、1995年11月以来、高等教育の計画及び財政に関する研究会をほぼ毎月開催してきた。

ご多忙の中をご来駕戴いた講師の方々及び熱心にご聴講下さった皆さんのおかげで、1999年3月までに33回を数え、ご講演戴いた方も50名を越えるに至った。その間に“仕事の関係で講演は聴けなかったが、是非その内容を知りたい”。あるいは“せっかくの講演内容を少数者だけのものにしておくのは惜しい”など、講演内容の公開を望む声が各方面から寄せられるようになった。実際、ご講演はそれぞれユニークで優れたものであり、中には他では聴けないような貴重な内容のものも少なくなかった。

そこで、これまでの講演を内容別に整理した上で、講演録として公開し、大方のご希望に答えることにした。今回刊行したのはその第Ⅰ集であり、大学の設置形態と財政の関係及び高等教育財政の現状に関

するものを中心に収録しているが、今後逐次続編を刊行する予定である。月例研究会の企画運営に携わった者として、かねてからの懸案であった講演録の印刷刊行が漸く実現をみたこと喜びとしたい。

公刊に当たっては講演のテープを活字にしたものを当センターで校正したものについて講演者のご校閲を戴き、誤りなきを期した。ご多忙の中、ご校閲の労をとられた講演者各位に改めてお礼申し上げたい。なお、第2章についてはご校閲がかなわなかったため、当センターの校正にとどめた。

本講演録の刊行は当センター管理部をはじめ印刷業者の方々など関係各方面のご協力をえたことについて深く感謝の意を表したい。特に校正についてはそのほとんどを目下当センターにおいて高等教育財政の研究に精励されている日本学術振興会特別研究員吉川裕美子氏にお願いした。同氏の献身的なご助力がなければ講演録が陽の目を見ることはできなかつたであろう。記して心より厚くお礼申し上げたい。

最後に、本講演録が少しでも高等教育財政に関心をもたれる読者各位のお役に立つことができれば幸いである。なお、続刊の講演録に関しては皆様方のご要望に沿って少しでもよいものにしていきたいと念願している。ついでに、講演録の内容、形態、刊行方法などについてご意見がおありの場合、当センター研究部にお知らせ下さるようお願いしたい。